

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 愛知県あま市立甚目寺小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 490-1111
愛知県あま市甚目寺西40

E-mail: sho_jimokuji@city.ama.ed.jp
 Website: http://www.city.ama.ed.jp/sho_jimokuji/
 児童生徒数：男子 351 名 女子 290 名 合計 641 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

ふるさと甚目寺「かかわる」「つたえる」「つながる」 —人権教育を柱としたESDの取り組み—

あま市立甚目寺小学校
学級数22・児童数641

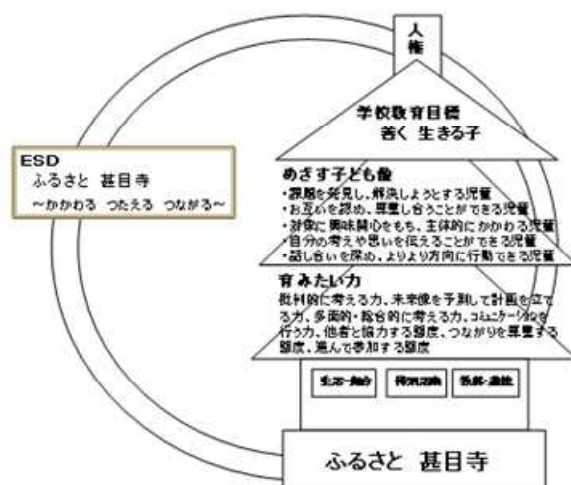
1 はじめに

甚目寺小学校は甚目寺観音のすぐ西隣に位置し、今年で開校142周年を迎える、地域で最も伝統のある学校のひとつである。本校の周りには飛鳥時代に建てられた甚目寺観音をはじめとする歴史的・文化的・伝統的な遺産が数多く存在している。

本校では学校教育目標「善く生きる子」のもと、子どもたちに必要な力を、様々な問題を多くの人と話し合い、すり合わせながら解決していく意欲や価値観、能力と考え、これらの力を身近な問題を解決していく実体験の積み重ねによって育てるように努めている。ESD・ユネスコスクールのテーマを「ふるさと 甚目寺～かかわる つたえる つながる～」とし、5つのめざす子ども像、7つのはぐくみたい力を設定した。「かかわる」とは、児童や学校が一方的に関わったり、関わってもらったりしている状態、「つたえる」とは、関わりから児童が学んだこと、学校が知らせたいことを人に伝え、地域に情報発信すること、「つながる」とは「かかわる」「つたえる」ことにより双方向的な関係ができることとした。

2 実践計画

ESDの教育活動は、人権を柱とし、ふるさとである甚目寺の地域を基盤として、教科・道徳、生活科・総合的な学習の時間、特別活動において、実践を進めている。この取組は、学校のある地域を心の中の「ふるさと」としてつなげていくために、自分たちがこの地域で大切にしたいものに目を向け、人や地域に関わり、人から人へ伝え、人や地域とつながることを重視した。また、この地域のよさを発見し活用する「ふるさと甚目寺」の学習は、各学年で活動のキーワードを設けた。1・2年生は「地域」、3年生は「福祉」4年生は「環境」5年生は「産業」6年生は「歴史・文化」である。このキーワードに基づき全学年でESDカレンダーを作成して、各教科・領域のつながりを明確にし、「かかわる」「つたえる」「つながる」を取組ができるようにした。



【ESD教育活動構造図】

3 実践内容

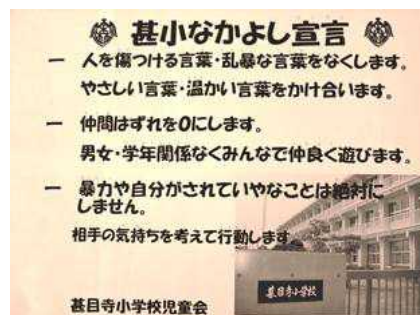
(1) 実践1

ア ねらい

人権教育を柱にした児童が児童とつながる活動

イ 内容

(ア) 甚小なかよし宣言



【甚小なかよし宣言】

いじめを解消し、「自他の人権を尊重する意識を磨く」目的で、児童会が中心となって作成した。全校児童が意識でき、毎回唱和ができる内容を学級に募集し、集約した宣言文である。この宣言には、「人を傷つける言葉・乱暴な言葉をなくします」など、具体的な行動目標がついているのが特徴である。各教室を始め、校内に掲示するとともに、毎週の朝礼時に児童会役員に続いて全校児童と職員が唱和している。入学した1年生も半年くらいで大きな声で言えるようになっている。

(イ) 甚小まつり

児童の交流を深め、「思いやり」の気持ちを高める活動として甚小まつりを行っている。これは児童が企画したものをみんなで楽しむもので、今年で、22年の歴史をもち、子どもたちが楽しみにしている行事である。3年～6年の各クラスが、お店の形式でゲームや出し物を企画し、特に1・2年生に楽しんでもらえるように取り組む児童会行事である。保護者からの要望があり、3年前から保護者も入場料のペットボトルキャップやアルミ缶を手にして子どもたちの企画に参加し、活動を盛り上げている。このペットボトルキャップとアルミ缶回収運動は、児童会が日常的に呼びかけをしており、ペットボトルキャップは発展途上国にポリオワクチンを、アルミ缶は地域の施設に車椅子を贈ろうと積極的に取り組んでいる。また、回収運動のPRも兼ねて、キャップを使って甚小オリジナルキャラクター「じんちゃん」のペットボトルキャップアートを制作した。今年度は、各学年の学年目標をもとに学年オリジナルマークを募集し、特別支援学級を含めた7つの各学年のペットボトルキャップアートを作った。制作には全員が参加し、全校集会で発表会を行った。その様子は、地元のケーブルテレビや新聞で紹介された。現在は、校内で最も人通りが多い廊下に掲示してある。



【甚小まつり】



【エコキャップアート5年】

(2) 実践2

ア ねらい

人権教育を柱にした児童が地域とつながる活動

イ 内容

(ア) 幼保小中連携

地域とつながる活動は、まず地域にある幼保小中と連携することが、大切であると考え1年生は総合学習発表会に、年長組の幼児を招待し交流を深めている。また、卒業生の中学1年生に、運動会のボランティアを募り、卒業生が通う2つの中学校の吹奏楽部に隔年でマーチングを演奏してもらい、部活動発表の場を提供している。地域の方に中学生の活躍を見ていただくとともに、小中のつながりを深めている。そのほかにも、校区の保育園へは、学校の紹介と読み聞かせに1年生が出向いている。

(イ) ふるさと学習

総合学習「ふるさと学習」では、全学年が直接地域に出向き、聞き取りや調査をする中で、地域の人やものやこととつながりを深めている。1年



【2年生 町探検】

生はプランタの花の提供、2年生は町探検で名鉄甚目寺駅とかかわりを持っている。それが縁で、甚目寺地区の6つ小中学校が駅にあるミニギャラリーの作品展示に協力することになった。2年生はかかわる活動として、毎年町探検で商店街に出かけている。その後、つたえる活動として取材したことをまとめて発表会を開いたり、商店街マップを作成したりしている。そして、つながる活動としては、取材させていただいたお礼に商店のPRポスターを作成して届けて、商店街の応援団的な取り組みをしている。

5年生は、地元の産業を調べる中で特産の小松菜や方領大根農家の取材を機に、自分たちも種から育てることにチャレンジすることになり、農家の方を講師に招いて教えていただきながら育てている。この経験を基に総合学習発表会で皆に伝え、2月には、毎月12日に甚目寺観音境内で開催されている「てづくり朝市」に参加し、甚目寺の産業や特産物の紹介をしたり、自作した小物や校庭で実ったレモンを販売したりして、来場者に地域自慢を紹介し、つながりを持っている。



【5年生てづくり朝市へ】

6年生は、夏休みに取材に行った甚目寺観音や萱津神社について、学んだことを総合学習発表会で皆に伝える活動を通してその歴史や地域の伝統文化に地域の誇りを見出している。希望者は、甚目寺観音の「節分会」や萱津神社の「香の物祭り」など、地域の行事にも参加している。参加するだけでなく、来る人にも好感を持ってもらえるような活動は何ができるかを話し合い、昨年度は節分会の前に参道の掃除を行っている。また、6年生は毎年、甚目寺の名誉町民（市民）である小笠原登博士について、円周寺の小笠原英司住職さんからハンセン病差別と戦った博士の話を聞いている。夏休みには人権センターに出かけ、ハンセン病について理解を深めている。これらについては、ESD あいち・なごや子ども会議のポスターセッションに参加し、学んだ地元の良さを多くの人に伝える活動にも力を入れている。このように、各学年とも地域に密着したふるさと学習を進めている。



【甚目寺観音節分会】



【ESD あいち・なごや子ども会議ポスターセッションに参加】

4 おわりに

ESDの視点を取り入れてこれまでの実践を見直したことで、単発の活動でなく、学んだことをふまえて地域を見つめ直すことができ、自分の考えをもって進んで地域と「かかわり」、思いや考えを「つたえよう」とし、ふるさととしてこの地域と「つながって」いこうとする子どもが増えた。学習を通して甚目寺を誇りに思い、将来の担い手としての意識は高まってきている。また、ふるさと学習を進めることにより、児童や教師や地域との関わりが、双方向のつながりに変化しつつある。特に児童は、地域のことをもっと知りたいという好奇心に火がついている。ふるさと学習によって、地域への思いがより強くなったようである。

課題としては、学年によって活動内容から地域とつながる活動が難しい場合がある。子どもの考えや、地域の願いを聞きながら活動の展開例を作っていきたいと考える。また、一年の終わりだけでなく、各実践の区切りがついたところで振り返りを行い、ESDカレンダーの充実と改善を図っていく必要があると考える。

最後に、ESDは続けてこそその意味に迫ることができると思う。小学校6年間を通してどのような子どもを育てていくかについて、学校で一体となって考え、培った力をさらに積み上げていけるようにしていきたい。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 (児童会活動としても実施している)